

長崎スタジアムシティ（アリーナ棟、オフィス棟）

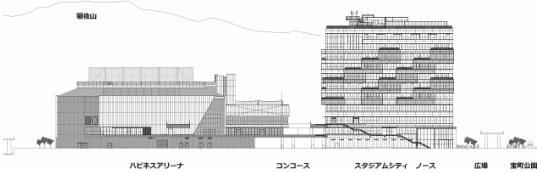
NAGASAKI STADIUMCITY (ARENA/OFFICE)

No. 16-070-2025作成
新築
集会場/事務所

発注者	株式会社ジャパネットホールディングス	カテゴリー	
設計・監理	戸田建設株式会社 TODA CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・CO2技術
施工	戸田建設株式会社 九州支店	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
		E. リニューアル	F. 長寿命化
		G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性
		K. その他	

街に開かれた超複合的スタジアムシティ

「V・ファーレン長崎」のホームとなる約20,000席のサッカースタジアム、「長崎ヴェルカ」のホームとなる約6,000席のバスケットアリーナ、日本初のサッカースタジアムビューホテル、食べる・学ぶ・遊ぶが詰まった商業施設、長崎県内最大級のオフィスビルで構成された、リジョナルクリエーション長崎が運営する大型複合施設である。戸田建設はアリーナ棟とオフィス棟を担当。



長崎スタジアムシティ全体鳥瞰パース

周辺環境へ配慮し、地域に根差したアリーナ

アリーナ棟（ハピネスアリーナ）はプロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」のホームアリーナであり、国内でもまだ珍しいクラブハウスが併設された施設である。貸館としての利用が可能な施設計画をし、興行収入を効率的に得る為に年間300日以上稼働を目標とした多機能型アリーナとなっており、客席の可動幕や移動観覧席によって収容人数を変更することが可能である。

周辺環境への配慮として、アリーナでの観客のタテ乗り振動やイベント騒音の対策を事前シミュレーションを行い検証し、杭の補強や外壁スペックの変更を行いながら計画している。自然エネルギーの活用として夏は冷たく冬は温かい恒温性を持つ井水を部分的に利用することで、エネルギーコストの削減を図っている。

また、設計段階から施工者も参画し、段床をプレキャスト化し施工効率の向上とCO2の削減を図った。



アリーナ内部

スタジアムの賑わいを感じながら働けるオフィス

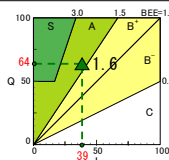
オフィス棟（スタジアムシティノース）は、長崎県内最大級の複合型オフィスビルであり、低層階に商業施設、最上階にコワーキングスペースを有する施設となっている。特徴としてオフィス専有部には開放的なバルコニーがスタジアム・アリーナに隣接して設けられ、リフレッシュやミーティングなど様々なシーンでスタジアムの賑わいを感じながら働くことができる。段々につながるバルコニーは長崎の街並みと呼应しながら、スタジアムシティとオフィスとの中間領域となり、開閉可能な窓を設けることで自然エネルギーの利用も促進している。

最上階では2層吹き抜けのラウンジの大開口が長崎の街の景色を取り込み、イベントを長崎の街を背に行うことができる。スタジアム、長崎の街とつながる施設計画を実現した。



スタジアムシティノース外観

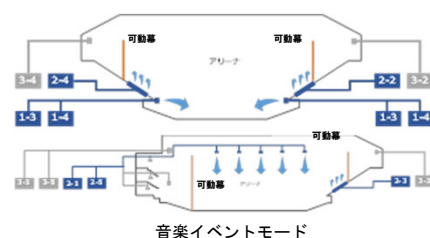
建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	長崎県長崎市	BEI (全工区) 0.73
竣工年	2024年	BPI (全工区) 0.78
敷地面積	74711㎡ (全工区)	Aランク
延床面積	194684㎡ (全工区)	BEE=1.6
構造	鉄骨造	2016年度版
階数	アリーナ：地上6階、オフィス：地上12階	自己評価



可変型空調計画

多機能アリーナとして施設の使用頻度を上げるため、バスケットボールの試合以外にも、音楽ライブやディナーショーなど多種多様なイベントの開催を想定しており、イベントの性質や収容人数により、可動幕を用いたモードチェンジを行うため、モードに応じた最適な空調計画を行った。

空調機自体を利用イベントごとにモードにあわせた空調能力とするのではなく、2次側のダクトを切り替えることで負荷変動に対応する計画とし、効率的な空調管理が可能となる計画としている。



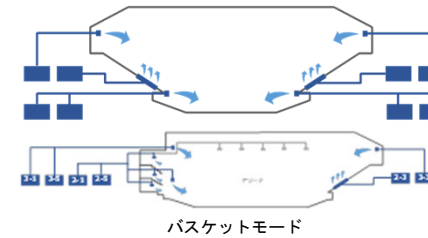
音楽イベントモード

市民参加型アート「名を刻むレング」

アリーナとスタジアム間の広場には「平和・スポーツ・未来・夢・希望」などをテーマとして、自身の名前や想いをレングに刻める「名を刻むレング」のアートを建設時に計画。プロジェクトの一員となり、長く愛される施設となる取り組みとなっており、市民だけではなく著名人なども参画し、スタジアムシティの一部として開業から時を刻み続けている。



可動幕を閉じた状態のアリーナ



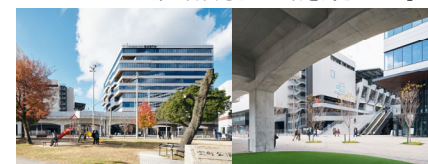
バスケットモード



コンコース床に計画された「名を刻むレング」

行政と連携した広場計画

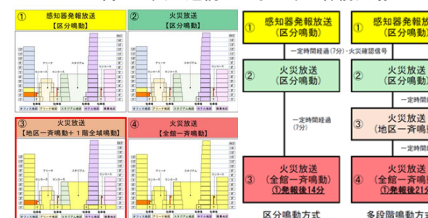
オフィス棟前の広場は、長崎市と連携し、既存の高架下まで広場が拡張された。これまで未活用で街を分断していた高架下、前面の公園とも連続した地域に開かれた新たな広場として生まれ変わった。イベント時には様々な人々が集う場所となっており、長崎の新たな風景を生み出している。



街の公園と連続したオフィス棟前広場

大型複合施設における防災設備

スタジアムシティは、都市型で他に類を見ない大型観覧場を含む大規模施設である。約53,000人の観客、勤務員、宿泊客等を収容できる施設として防災設備の重要性が強く問われる施設であった。スタジアムやアリーナは不特定多数の人が一か所に集まる施設であり、安全な群衆避難の確立と無用の混乱の回避が大きな課題であった。その為災害時の避難方法、誘導放送を行う非常警報設備（放送設備）の鳴動方法等を消防設備安全センター（システム評価の取得）や消防等と協議し多段階放送鳴動方式を日本で初めて適用した。



多段階鳴動方式

PM：中田幸宏

【アリーナ棟】 建築：浦波寛弥、石川えり子、加藤敬史、中原祐貴/構造：東口 剛、牛島 祐樹、常見 奈央/設備：毛利広平、清水雄太、金子学、岡村知明

【オフィス棟】 建築：中本裕美子、堀川龍太郎、木戸口幸華、中山東風/構造：名智竜哉、柿沼貴博/設備：山岸一郎、宮本祐太、建部直弥

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 3. 対応性・更新性（多機能型アリーナ）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（アリーナ井水利用、オフィスバルコニー開閉窓）
- LR2. 1. 水資源保護（アリーナ・オフィス 雨水利用）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（アリーナ客席段床のPC化）
- LR3. 3. 周辺環境への配慮（アリーナ騒音、振動対策）